

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	日本語教育センター(国際連携機構)
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2011年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価		
		2011	2012	2013
1. 日本語未習者を対象にしたプログラム案を策定する。	プログラム案の策定状況 評価基準： A→日本語未習者を対象にしたプログラム案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B	A	
2. 関学の留学生の実情に即した日本語教育プログラム案を策定する。	プログラム案の策定状況 評価基準： A→関学の留学生の実情に即した日本語教育プログラム案を策定 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	B	A	
3. 各学部・センター・研究科との連携の方策案を作成する	連携の方策案の作成状況 評価基準： A→各学部・センター・研究科との連携の方策案を作成する。 B→評価基準なし C→評価基準なし D→未策定	D	A	

☆

2012年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価		
		2011	2012	2013
4. グローバル人材育成推進事業におけるSENDプログラムに対応する科目を創設する。	SENDプログラムに対応する科目の創設状況 評価基準： A→創設した。 B→創設の準備はできたが、まだ創設していない。 C→創設の見通しはあるが、まだ創設に時間がかかる。 D→検討していないため、創設の見通しが無い			
	→			

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	国際学部からの未習者受け入れに伴い、従来からある交換学生用のレベル1のプログラム（インテンシブ・レギュラーともに）の改修を含めて、新たにプレ1のプログラム（日本語学習コースプレ1・インテンシブは週6コマ、レギュラーは週3コマ）を構築し、2012年度秋学期から実施している。
目標2	大学院学生用の科目としてあった「日本語口頭発表」「日本語論文作成」科目をそれぞれ春秋開講とし、両方の履修ができるようにして、より高度な日本語運用能力を身につけさせるプログラムに改編した。また従来あった学部の「ビジネス日本語」を充実させるために従来のA・Bに加えCを新たに開設した。さらに、学部科目「日本語総合演習」についても、多様な日本語能力の向上を図るため、2013年度春学期から従来の一学期のみの開設ではなく、通年にわたって履修できるよう改編した。また、交換学生用の日本語プログラムではレベル6以上の学生のために、6プラスのクラスを増設した。
目標3	2012年度に国際学部との間で、留学生の日本語科目受け入れについての覚書を交わした。国際学部と本センターの科目では履修体系が異なるが、国際学部の未習者から日本語N1レベルに到達しない学生について、遺漏なくしかし国際学部の履修体系に準拠した形で履修できるよう配慮した覚書である。
備考	グローバル人材育成推進事業におけるSENDプログラム（日本人学生が留学先の現地の言語や文化を学習するとともに、現地の学校等での日本語指導支援や日本文化の紹介活動を通じて、学生自身の異文化理解を促すことを海外留学の目的の一つとして位置づけ、将来、日本と留学先の国との架け橋となるエキスパート人材の育成を目指す取組（Student Exchange - Nippon Discovery の略称））に対応するため、グローバルスタディーズ科目として「日本語教育基礎」「日本語教育基礎演習」科目を2013年4月に開設した。